



世界有数の工業デザイナー。実年齢より若く見えるが日本の重鎮であり、かつ、今もトップデザイナーであり続ける。業界では「気難しい、怖い先生」というイメージで通っている。実際、仕事の現場では妥協を許さない。川崎の主要な活動の場の一つ、大阪大学大学院の川崎和男先端デザイン研究室の入口には、教え子たちに向けたこんな言葉が日・英・中の三か国語で掲示されている。
オンリーワンなどありえず／この研究棟にて研究と研鑽を積みし者は／ナンバー

ワンとして／社会変革のリーダーたれ／ナンバーワンに成れず者は自死を選べ
一番になれなかつたら死ねという、これも川崎の一面だが、実際に会うと、心の柔らかい繊細な人柄という印象だ。七九歳の恩師、平野拓夫(金沢美術工芸大学元学長)の前では学生時代と同じように小さくなり、時には心情を吐露して泣くこともある。
工業デザインの範囲は「口紅から機関車まで」といわれているが、川崎の場合は、「たわしから人工心臓、そして原子力機器まで」というのがなかばキャッチコピーになっているほど広い。最近ではロボットを用いた手術システムの研究にも取り組んでいる。
金沢美術工芸大学を卒業後、東芝に入社して担当したオーディオ機器のデザインからスタートした。二八歳のとき、交通事故で脊椎を損傷し、椅子を必要とするようになったのがきっかけとなって独立。恩師に紹介された眼鏡のデザインなど活動範囲を広げ、それぞれの分野でナンバーワンになった。

○八年の米大統領選挙で共和党の副大統領候補サラ・ペイリンがかけていた眼鏡は、レンズを留めるネジのない独特の
デザインが注目されてブレイクした。その眼鏡は、川崎の仕事の一つである。
「その眼鏡の訳を『設計』から『策略』に変更した中国」
「よく入退院するんですが、看護師さんに何の商売をしているのって聞かれます。「デザイナー」と答えると「洋服？」と聞かれる。そこで逆に、点滴の器具や心電計の裏側にデザイナーがいるって知ってる？」と聞くと「え、そんなものもデザイナー？」といわれますね。まだまだ日本では工業デザインが知られていない」
では、デザインとは「設計」のこと？
「二〇世紀の後半までは、中国も[Design]を「設計」と訳していました。しかし、二一世紀が始まる直前、北京理工大学がアジアデザインセンターをつくったときに「策略」と訳したのです。それを見て、台湾では「資源」と訳しました。彼らはそこまで進んでいる。見た目はかりを追う軽薄な作品の多い日本のデザイン界にあっては恐ろしい事態です」
デザインとは、策略であり、資源である。韓国でも超難関大学のKAIST(韓国科学技術院)がデザインに力を入れている。卒業した優秀な学生が日本やアメ

リカに留学して韓国に戻ってくる。「わかりやすい例をあげると、日本の韓流スターブームも国家策略の結果です。韓国はまず大学に映画学科をつくり、俳優養成機関を設け、眉目秀麗な学生を入れてトレーニングした。一〇年かけたデザインです。日本とはえらく違う」
日本は世界から置いてきぼりになっている。今、国際コンペに残る日本人デザイナーはほとんどいない。あまりに日本人がいけないので、選考の一つ前の段階に戻ってまで日本人の作品を探すが、選考に残せるレベルに達してないから受賞作にはならない。
理想を具体的に目に見える形で提案する
デザインとは結局何なのか。シンプルな形で「デザイン」の本質を体現しているモノを川崎の研究室で見つけた。
それは「シンプトンス(禁断症状)」(一九八八)という作品だ。有名な富山県高岡の鋳物製で、菓子箱のような立体的な上面に三×三に並んだ浅い窪みがある。そこにびったりあう金属ボールが三つ乗っている。ゲーム盤かオブジェのようだが、じつは灰皿である。それも禁煙用の。

素材の結晶構造を生かし理想を現実にする力それがデザインだ



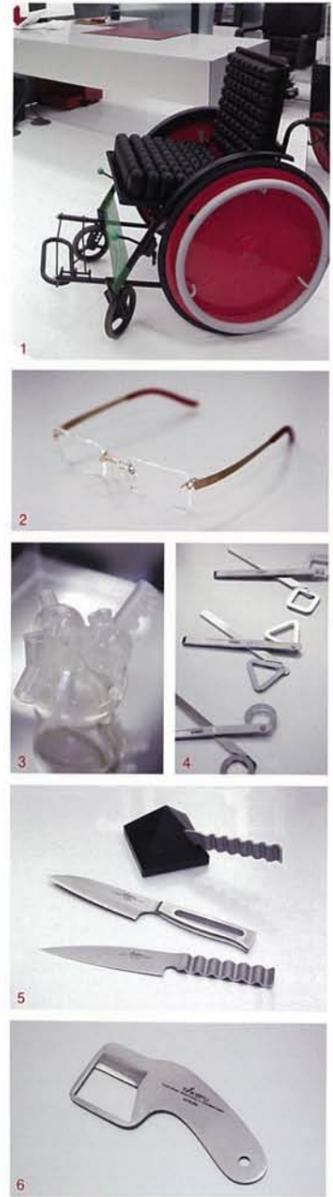
工業デザイナー
かわさき かずお
川崎 和男

1949年生まれ。工業デザイナー・大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授(大阪大学大学院工学研究科・医学研究科教授兼任)。グッドデザイン賞審議委員会委員。国内外での受賞歴多数。ニューヨーク近代美術館など海外の主要美術館に永久収蔵、永久展示多数。
<http://www.design.frc.eng.osaka-u.ac.jp/kazuokawasaki.html>

生活に満ちるさまざまな「モノ」には必ずデザインがある。そのデザインは、単なる装飾という外観ではない。性能と素材を融合し、効能ある形が機能になる……。それがデザインの本質だ。常に素材開発の最前線に立ち、衝撃をもたらす作品を次々に世に送り出す男、川崎和男のロジックは、原子からしみ出る新たな生活空間を創造する。

川崎和男の作品

1チタン素材のスニーカーのような車椅子「CARNA」 2サラ・ペイリンも愛用のリムレスタイプの眼鏡「Kazuo Kawasaki MP-704」 3全置換型人工心臓「イニシャルモデル」 4越前内刃物の職人技と川崎和男のデザイン美が見事に融合したハサミ。 5刃物専用鋼をステンレスで換んだ三層鋼。火造り鍛造を採用した包丁。 6傷つけないガードが設けられている鉛筆削り「SCHOLA」



ウムの原子とモリブデンの原子が乗っています。クリップの部分はニッケルチタンの形状記憶合金です。二つはイオン化傾向が異なるため、接続部分が腐食することになる。それを抑えるのがネジです。耳にかかる部分にはシリコンと違って肌アレルギーを起こさない高密度のエラストマーを開発しました。そこまでの開発をデザイナーとしてやっているんです」

オールチタン、車輪にアルミのハニカムコアを使った代表作の車椅子「CARNA」(一九九〇)でも、越前・武生の伝統工芸である鉄の火造り鍛造を生かした包丁や鉛筆削りでも、素材から考え、しかも、製作コストから販売価格・戦略にいたるまで責任をもってデザインしてきた。

「素材はmaterial。頭文字のmは一般的な英字としては表音文字ですが、ヒエログリフ(神聖文字)的には表意文字で波の形を意味します。波はmaterie、海はUMI(産みです。シメール語でいうとUMU(産む)、mudu、おかあさんは海なんです。海から何でも生まれてくる。同じmのmaterialもモノを生み出す存在です」

「五〇年後、ぼくはきっといないだろうけど、まだまだ創りたいモノがいっぱいある。教えるために、ぼくはこんなイメージを持っているけど、こんな素材はまだまだできないから頼んだぞ、というのがぼくの五〇年後です」



シンポンズ(1988)



「このボールの一つを取り上げると、そこに穴がある。ボールは蓋だったのだ。これをニューヨークの展覧会に出展すると大評判でTV取材の質問攻めにあった。」

「いや、申し訳ないが、ダ・ヴィンチよりぼくのほうが賢いはず」

